

ばん茶

せん茶



春は名のみ風の寒

さや…立春とはいえ、

これからが冬本番であ

る。

ここは北上山地、標

高720呎の酷寒の地

である。真冬には氷点

下20度まで下がること

も度々ある。本州一寒

いこととて有名な藪川地

区と同じ程度の寒さで

ある。この地に入植し

て30年の歳月がたっ

た。現代の若者には「入

植」という言葉すらな

れる。

当時、「北上山系開

発事業」という国策で

酪農団地を作り、日本

の食料基地として眠れ

ある。私も開拓者、フ

ロンティアに憧れて若

き血潮をたぎらせてい

た30歳。この地に桃源

郷を作りたいたの思い

度

の寒さが体の芯まで

染み通った。凍結した

水道管が破裂したり、

牛舎のふん尿が凍って

暖房が効き、全くの寒

さ知らずで作業できる

のは隔世の感がある。

しかし、この寒さが

もたらす緊張感はなん

たのも、この氷点下20

度という寒さと肉体勞

働の恩恵だと思ってい

る。

この牧場には全国各

地から山地酪農を目指

す若者が集まってい

る。南は島根、岡山、

寒さ暑さを体感し、足

先から頭のとっぺんま

地で生まれ育った若者

たちである。今日もこ

の若者たちと吹雪に立

ち向かう。

(宮古市和見町、酪農

家・東京農業大学客員

酷寒の地を開く

中 洞

正

る県土の発展を担うと

いう壮大な構想があっ

た。この構想のもとに

19戸の夢あふれる若き

酪農家が入植したので

で入植をした。

しかし、寒かった。

かなくなることも度々

あった。

30年経た今、キャビ

ん尿かき出し機)が動

る労働の素晴らしさを

この年齢になって実感

している。

よわい61まで全く病

教授 61歳)

教授 61歳)

教授 61歳)

教授 61歳)

教授 61歳)

イラスト

多田國雄